

平成15年度 文学部 授業計画表[syllabus]

科目名 教育社会学A (英文名) Educational Sociology A	2単位 (春 期)	(ふりがな) むらかみ じゅんいち 担当者 村上 純一 e-mail murajyun@kokushikan.ac.jp
授業のねらい:教育社会学の観点から現代の子どもの学びを検討する 概要:今日の学校制度において、子どもたちは何を学び、何を学びそびれているのだろうか。教育社会学的な観点から選んだ、各種調査や報告、教師たちによる実践記録、研究者による分析などを読みながら、それを考えてみたい。授業の終わりには、ミニ・レポートを書いてもらい、次回にその一部を紹介する。学生諸君の参加により、多様な視点と価値観が、響き合うような授業にしたいと考えている。教育社会学AとBは、通年で構成しているので、双方とも受講することが望ましい。Aでは、学習指導の領域に焦点を当てて考える。		
教科書:使わない。資料は授業で配付する。		
参考図書:今泉博『どの子ども発言したくなる授業』学陽書房、陰山英男『本当の学力をつける本』文芸春秋、文部科学省『学習指導要領』、宮下聡『中学生の失敗する権利、責任をとる体験』、他		
評価法:期末にレポートの提出を求めるので、必ず提出すること。出席も若干加味する。		
具体的評価法:レポートは2000字以上、手書き・ワープロとも可。テーマは授業時に提示するが、授業の内容と各自の問題意識とを関連づけながら書くことを心がけてほしい。		

【授業計画】

回 数	講 義 テ ー マ と 概 要
第1回	授業のアウトライン
第2回	経済同友会の「合校」構想(「学校から『合校』へ」1995年)
第3回	「合校」構想が提起した論点…学習、学校参加、学校選択、教師の専門性
第4回	教育費について…教育公費、教育私費
第5回	学級崩壊…公教育への信頼の揺らぎ
第6回	新学習指導要領とそれが引き起こした議論
第7回	「ゆとり教育」批判(地球産業文化委員会「学力の崩壊をくい止めるための、教育政策に関する緊急提言書」2000年)
第8回	学力低下問題の背景(久富義之「日本の子どもの学力の現状から」2000年)
第9回	学校知識の魅力とその文脈
第10回	隠れたカリキュラム(今泉博『どの子ども発言したくなる授業』1994年)
第11回	失敗から学ぶこと(高垣忠一郎『子どもの心を聴く』1998年)
第12回	学習における「競争」と「共同」
第13回	「百ます計算」から学ぶもの(陰山英男『子どもは無限に伸びる』2002年)
第14回	かけ算の学習とは(行田稔彦他『小学校「教え」から「学び」の授業づくり』1996年)
第15回	春期のまとめ
第16回	授業のアウトライン
第17回	青少年の自立と問題行動(青少年問題審議会「『戦後』を超えて—青少年の自立と大人社会の責任」1999年)
第18回	『開かれた』学校づくり…地域社会と学校の連携
第19回	学校評議員制度
第20回	フランスにおける「学校管理委員会」
第21回	中学生にとって地域とは(宮下聡「大人の常識・子どもの非常識」1998年)
第22回	「服装問題」から考える中学生の学校参加
第23回	意識されざる管理…ダブル・バインド(横湯園子『子どもの心の不思議』1997年)
第24回	子ども達の「平気感覚」(中西新太郎「何があっても平気でいようとする心」2002年)
第25回	秋期のまとめ